

江戸時代の名古屋を、歩いてみませんか？



名古屋
おもてなし
武将隊

特別付録 名古屋城下図付き
1,000円税別



名古屋開府400年記念

「古地図で歩く 城下町なごや」

3/20
発売!

知れば知るほど面白い、「城下町なごや」の謎に迫る。
宮本武蔵が尾張藩に要求した給料は？名古屋の城下町が、5度左に傾いている理由？大風で金シャチを盗んだ泥棒がいたら、本当？名古屋城に眠っていた埋蔵金の額は？
そんな面白い城下町ネタも満載。古地図と現代地図を比較しながら歩ける「古地図ウォークコース」を10コース収録。携帯しやすい、B5軽量サイズ84ページで、3月20日（土）に新発売。
特別付録として大型サイズの古地図（名古屋城下図）付です。

●35・36ページ「徳川（京春物語）
地図だけではなく、城下町の面白さを紹介。



●17・18ページ「朝日文左衛門の芝居見物コース」
古地図と現代地図を比べながら、城下町さんぽをお楽しみください。



名古屋おもてなし武将隊も『駅ちかウォーキング』へ出陣！

「名古屋おもてなし武将隊」とは

戦国時代から現代へ。平成の名古屋を駆け抜ける武将集団。



名古屋は、多くの戦国武将を輩出した「武将の聖地」です。そこで開府400年に合わせて、名古屋ゆかりの六武将（織田信長・豊臣秀吉・徳川家康・前田利家・加藤清正・前田慶次）と四陣笠を集め、名古屋の魅力を全国に伝えるために「名古屋おもてなし武将隊」を結成しました。毎日、名古屋城にて、お出迎え、観光案内、記念撮影などの「おもてなし」をおこなっています。

4月1日 名古屋城、武将カフェで、武将隊オリジナルグッズ発売！



武将マグカップ 800円



武将タオル 600円



武将センス 1,200円

お問合せ
興竹商事株式会社
TEL.052-764-1761



駅ちかウォーキング Special

市バス開業80周年記念特別企画



古地図であるく 城下町なごや

清須越から400年。いまま城下町の面影を残す名古屋城界限を古地図を片手に歩きましょう。

古地図 [名古屋城下デジタル
復元地図 より] + 現代地図

平成22年 3月21日(日)開催

参加費無料
予約不要

[集合場所] 国際センター駅改札口付近 [スタート受付] 9時30分～10時30分
[ゴール] 名城公園駅 [距離] 約6km [所要時間] 100分

※コースの距離や所要時間は目安です。



お問い合わせ先:名古屋市交通局乗客誘致推進室 TEL 052-972-3816 FAX 052-972-3817

共催:市民経済局観光推進室 協力:名古屋開府400年記念事業実行委員会、西区まちづくり推進室、雀おどり總本店、両口屋是清、円頓寺本町商店街、円頓寺商店街

2010年、名古屋は開府400年を迎えます。1610年、徳川家康は広大な那古野台地に名古屋城を築城し、碁盤の目の城下町を造りました。このコースは、円頓寺から五条橋を渡り、京町筋を本町まで歩き、名古屋城の外堀を通るコースです。旧町名や由緒ある史跡など、最も城下町の面影を今に伝えるエリアです。

五条橋から西へ延びる円頓寺商店街は、円頓寺を中心に開けた門前町で、名古屋で最も古い商店街だと言われている。

A narrow street in a traditional Japanese town, lined with dark wooden buildings and a utility pole.

名前の由来は、火事になり
道幅を四間(約7.2m)に広
げたことから。奇跡的に戦
火を免れ、名古屋城下の面
影を残す。

工業地（「増進の機関」紙面）

元は清須の五条川に架かっていたが、清須越で、名古屋に移築された。清須越は、人だけではなく建物、橋、町名まで移動させた。当時の擬宝珠が名古屋城天守閣に展示されている。

A photograph showing the exterior entrance of the building. The entrance features a dark wooden door and is flanked by a small tree on the right and a white fence on the left. The building has a light-colored facade with a dark roofline.

江戸時代、両口屋と双壁を
なした桔梗屋から暖簾分け
された美濃屋忠兵衛が、安
政元年(1854年)に創業し
た和菓子の老舗である。

初代徳川義直が、元和4年(1618年)家康の三回忌の翌年、三之丸に勧進した。明治に尾張藩の藩校・明倫堂の跡地に移る。昭和29年、建中寺より義直の妻・春姫の霊廟を移築し社殿とした。

古くは天王社として延喜11年(911年)より三之丸付近に鎮座していた。名古屋城築城の際も、そのまま残り、城の総鎮守として、名古屋の氏神として祀られた。明治になり現在地に移された。

城と城下町の接点「本町御門」に、かつて奉行所と評定所があった。江戸の町奉行と同じように、数々の裁判が行なわれ、城下の治安が守られてきた。幕末には「青松葉事件關死の地」となった。

北京通惠河上的彩虹桥

正式名は「本町大手御門」。この名が示すとおり、ここが名古屋城の正門であり、ここから南に伸び橋町まで続く本町通が、城下町のメインロード。豪商や大店、特権商人が競って暖簾を掛けた。

© 1994 by The McGraw-Hill Companies

現在官庁街である三之丸も、かつては名古屋城の敷地内であった。三之丸は尾張藩の上級武士(主に家老職)の大豪邸が整然と並んでいた。現在の地図と古地図を比べると、その広さが実感できる。

名古屋城の御深井丸に建つ三重三階の櫓。名古屋城で最も古い建物といわれ、国の重要文化財にも指定されている。清洲城の古材で作られたことから「清須櫓」とも呼ばれている。

① 日野古野神社 ② 東照宮 ③ 美濃遺志 ④ 五条橋 ⑤ 四間道 ⑥ 八幡寺 ⑦ 市バス那野 営業所跡 「ナノスペース」 ⑧ 大井小路 (倉庫跡・野群賢)	⑨ 日本銀行門 ⑩ 下木科字跡 ⑪ コール ⑫ 地鉄名景公園駅	⑬ 國府三ツ丁駅 ⑭ 下鉄 ⑮ 國府三ツ丁駅 ⑯ スタート	⑰ 轉車所・評定所
--	---	---	------------------

[illegible]

この地図は、京都の中心部、特に上京区と中京区に位置する歴史的なエリアを示しています。赤いルートは、地下鉄「国際センター」駅（スタート）から始まり、五条橋（B）を経由し、美濃町（D）を通り、東照宮（E）と奉行所（H）の周辺を巡り、最終的に五条橋（C）で完了します。このルートは、歴史的な建造物や文化遺産を巡る観光コースを示しています。

主要なランドマークと地名：

- スタート**：地下鉄「国際センター」駅
- A**：円頓寺
- B**：四間道
- C**：五条橋
- D**：美濃町
- E**：東照宮
- F**：奉行所
- G**：本町御門
- H**：本町御門
- I**：大名小路（家老屋敷群）
- J**：西北隅櫓
- K**：名古屋城
- L**：名古屋能楽堂
- M**：御蔵部屋跡
- N**：天長山神宮寺
- O**：東照宮
- P**：安養寺天王坊
- Q**：公儀御霊屋敷
- R**：御霊屋敷
- S**：御殿
- T**：大名小路
- U**：那古野神社
- V**：明倫堂跡
- W**：茶屋四郎次郎邸跡
- X**：京町筋
- Y**：七間町筋
- Z**：上長者筋
- AA**：長島町筋
- AB**：桑名町筋
- AC**：伏見町筋
- AD**：御園町筋
- AE**：持福院
- AF**：至誠院
- AG**：柳河春三出生地
- AH**：ムクツギ
- AI**：慶徳寺
- AJ**：慶徳寺
- AK**：高田本坊信行院
- AL**：市バス那古野営業所跡（ナゴノスペース）
- AM**：下水道科学館
- AN**：ゴール地下鉄「名城公園」駅
- AO**：名城公園
- AP**：御深井之内

この地図は、観光客にとって非常に有用な情報源であり、歴史的な建造物や文化遺産を巡るコースを明確に示しています。